

ごあいさつ



株式会社栗本鐵工所
代表取締役社長

横内誠三

2003年3月16日から23日の8日間、琵琶湖・淀川流域の京都、滋賀、大阪の3府県で第3回世界水フォーラムが開催されました。世界水フォーラムは3年ごとに開催されるもので、第1回の1997年モロッコのマラケッシュ、第2回の2000年オランダのハーグに次ぐもので、日本はもちろんアジアで初めてでした。

20年程前にマラケッシュを訪れたことがあります、「赤い土」の意味をもつ地名だけに砂漠の中の当地は赤れんが色一色でとても埃っぽかった記憶があります。世界的な乾燥地域にもかかわらず、アトラス山脈の伏流水の恵みを受け、モロッコでは有数の農業中心地でもあります。古来より人々が水を大事に扱い、又上手に利活用している象徴的な地域として最初の開催地に選ばれたのでしょう。四季があり、時には水害を経験する我が国は水資源に恵まれた国と思いがちですが、一人あたりの水資源賦存量(水資源として理論上利用可能な量)は、何と世界平均7,000立方メートルに対して3,300立方メートルと半分以下で、必ずしも豊かではないと認識すべきでしょう。

人類と文明の歴史は、その発祥以来、水の歴史と言っても過言ではありません。過去、為政者は水を治めることは、国を治めることと同義語と言われるくらい治水、利水に腐心してきました。長江の水を黄河流域へ引水するという壮大なプランである中国の「南水北調プロジェクト」は世界の近代水施策の代表的なものです。しかし一方では、産業の振興・発展、人々の豊かさを追い求めるための開発行為などが水の惑星地球の環境に変調をきたし、世界各地で水不足、水災害、水質汚染、生態系の破壊、温暖化など色々深刻な問題を引き起こしているのも事実です。21世紀は水の時代とされていますが、基本的には地球環境問題の解決なしでは水の問題も解決出来ないのではないのでしょうか。

水道関連事業を創業以来、主要な事業として位置づけている当社は、現在でも「水」にこだわった各種商品、事業を提供しておりますが、さらに今後は環境装置、環境サービス事業などでも社会に貢献していきたいと考えております。